

Moving plate(ムービング・プレート) 特別賞・特別審査員賞

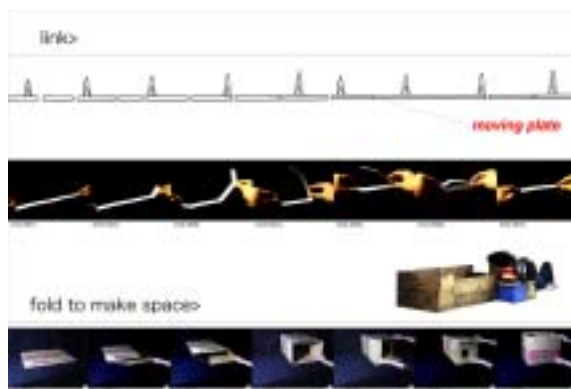
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

鈴木 雄介



千葉県習志野市と船橋市の境に、JR 津田沼駅と新京成津田沼駅という2つの駅があります。私は、この駅周辺をフィールドワークし、そこで起きている都市活動みてきました。使う人はそれぞれ目的をもっていて、使う人、使われ方が変化しています。

この場所の交通問題を解決するとともに、人々の行為を誘発させる居場所を提案します。この『moving plate』は都市の時間軸に連動して動くプレートです。形の変化により、使われ方が変化していきます。朝は2駅間のコンコースとして機能し、形の変化、時刻の変化によって、歩いたり、食事をしたり、歌を歌ったり、踊ったり、寝たりとそこで起きる行為も変化していきます。このような都市のランドスケープを提案します。



講 評

この作品は津田沼駅前のコンコースとしての提案である。人の活動のタイムテーブルを作成し、時間とともに変化する人々の活動は朝のラッシュアワーから待ち人あり、集まって団欒する人あり、寝る人あり、歌う人あり、と多様に変化する。その変化をデッキが可動しその空間を時間軸とともに変化し対応する。そのような提案である。朝のラッシュはデッキはフラットであり、その時間が過ぎると moving plate のユニットがいろいろな空間を構成し、時間軸とともに変化し、対応する。時には雨宿り空間にもなるだろう。固定されない場合は臨機応変に機能と合致し、環境として飽きない空間を演出するだろう。

しかし、それらの空間もプレゼでの表現にもう少し力を入れて欲しかった。ラッシュ時のフラットデッキ。待合時間帯の空間の変化としての人の有り様。歌を歌う場としてのステージや人の集いの図。これらをきちんと表現できればもっと高い評価を得たと思う。

今後の努力に期待したい。建築が好きだ。という気持ちをもっと押し出したならばきっといいものを街に残すことになるだろう。期待したい。

[審査員 荻原 幸雄]